

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスク大和南保育園（3回目受審）
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	認可保育所
事業所住所等	〒242-0016 大和市大和南2-2-9
設立年月日	平成26年4月1日
評価実施期間	平成28年9月 ～ 平成29年2月
公表年月	平成29年4月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市版
総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）	
【施設の立地・特徴】 1. 園および施設の概要 アスク大和南保育園は平成26年4月1日に開園し、小田急江ノ島線および相鉄線大和駅から徒歩5分の商店と住宅が混在した街に立地しています。鉄筋コンクリート3階建ての園舎で、園庭は1階と3階屋上部分にあります。0歳児から5歳児まで63名（定員60名）が在籍しています。園近辺には大和公園や大和南2丁目公園などの公園があり、異年齢で散歩に出かけたりして、自然に触れる機会を多く持っています。 2. 園の特徴 平日には未就園児を対象に「一時保育」を受け入れ、日曜・祝日には大和市の認可保育園で唯一「休日保育」を実施しています。子どもたちの感受性や好奇心を伸ばすため、設置法人グループの専任講師による英語、リトミック、体操教室を毎週行い、食育の一環として毎月クッキング保育を行っています。 【特に優れていると思われる点】 1. 子どもたちが意欲的に取り組める活動の工夫 「一人一人の子どもを見守る保育」を大切にし、子どもの健全な成長のためにいろいろな経験をさせ、「個」を大切にする保育を目標にして実践することにより、子どもたちの自信、主体性が育まれています。 生活発表会の劇「アリババと 40 人の盗賊」の配役は子どもたちで決め、小道具を自分たちで考えて製作し、せりふは自分達で意見を出し合い修正しています。散歩先の公園を決めるときに自分たちの希望を出し、散歩中に会おう人に積極的に挨拶し、車や相鉄線の運転手に手を振り、散歩の列の前後で好きな歌を歌い出しています。公園では、自分達でへとへとになるまで駆けっこをし、縄飛びで連続跳び回数を競っています。午睡の布団敷き、食事後のテーブル拭き、屋上のプランターの植物への水やりなど、保育士の声かけや指導によることなく自分達で考え行動しています。大和市主催のアートフェスタのギャラリーに、年長児がお泊り保育で経験したプラネタリウムを共同作品として出展しました。 保護者アンケート結果では、日常保育の遊び・生活のほとんどの項目について90%前後の高い満足度を示しています。	

2. 積極的な地域との交流

地域との積極的な交流を目指し、一時保育、休日保育、子育て相談、園行事への招待、地域行事への参加などを積極的に行っています。園独自で大和南の公園で3月、6月に「にこにこひろば」、園内で11月に「すくすくひろば」を開催し、地域の親子数組が参加し子育て相談にも応じています。また、深見台地域子育て連絡会に参加し、就学相談、育児講座、手遊び、紙芝居などを担当しています。今年度は園長が地域自治会の班長を担っており、地域行事の情報把握、地域交流に役立っています。

3. クッキングを通じた2歳児～5歳児の食育

年間食育指導計画は4半期に分けられ、具体的な行事、ねらい、内容・留意点（食体験）が記載されています。これに基づいて2～5歳児の月別の詳細な計画を作成し実行しています。2歳児は食材に触れることから始め、3歳児はクッキング中の食材の変化を知り、4歳児は皮むき器などの器具を使うことを経験し、5歳児は包丁の使い方を学んでいます。これらを通じて、旬の食材を知り、食への関心を高め、郷土料理など日本の文化に触れ、栽培を通じて水やり・成長・収穫を楽しみ、楽しく食べることや食事マナーを学んでいます。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. その日の子どもの様子を伝える工夫

保者アンケート結果では、「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換」について、否定的意見が24%（どちらかといえば不満21%、不満3%）です。その日の子どものエピソードなど、様子を伝えるためにさらなる工夫をすることが期待されます。

2. 園としての自己評価結果の公表

第三者評価を受ける課程で、職員一人一人が自己評価を行い、その結果を基に園としての課題を抽出し、改善点を職員会議や昼礼で話し合っています。園としての今後の課題と取り組みについて、園だよりなどで保護者に公表することが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重	・理念・基本方針を基に園目標を策定し、これらは子どもの成長を第一に考え、子どもの最善の利益を考慮したものとなっています。 ・保育園業務マニュアルの「子どもへの言葉かけ・対応について」を職員会議で話し合い、子どもの呼び方を含む言葉遣いや子どもの人権を尊重することなどを確認しています。 ・職員は、穏やかでゆったりとした言葉で子どもたちに話しかけるよう心がけ、子どもの気持ちに寄り添い、子どもが自分の言葉で話せるように援助しています。 ・個人情報取り扱いマニュアルを年度始めに職員会議で確認し、個人情報記載文書や写真の園外持ち出しの厳禁、事務室・休憩室以外の場所への持ち出し禁止をルールとして徹底しています。 ・保護者に対しては入園時に重要事項説明書で、個人情報取り扱いや保育所児童保育要録の小学校への提出について説明しています。 ・遊びや行事の役割、持ち物など性別による区別はせず、行事の役割は子どもたちの話し合いで決めています。
----------------	--

	・「虐待対応マニュアル」が完備され、登園時には子どもの様子を観察し、着替え時には体にキズやアザがないか確認し、虐待の早期発見に努めています。虐待が疑わしい場合は園長に連絡し、必要により設置法人や大和市の家庭こども相談担当と連携をとっています。
2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	・入園前面接には親子で来園してもらい、「入園前面談シート」にそって、既往症や家庭での状況、保護者が気をつけていること、園への希望などを聞いています。 ・職員は乳児の表情や仕草から意思を汲み取り、幼児には遊びや製作などで意見を聞き、子どものやりたいと思う意欲を大切にしています。子どもの自由な発想を遊びの中に活かしており、自由遊びの際に子どもに何をやりたいか聞いて行っています。年長児の一斉活動ではゲームや体操のプログラムなどで友だちへの配慮、順番を守るなどのルールを伝えています。 ・0～2歳児クラスの保育室はおもちゃケースや低い棚を利用してコーナーを作り、マットを敷いて小集団で遊べるように工夫しています。各保育室とも棚を使って機動的に子どもたちが動けるよう区切り、食べる場所、遊ぶ・寝る場所を確保しています。 ・0～2歳児クラスは、一人一人の状況に応じて個人別の指導計画を毎月作成しています。幼児についても、特別な配慮が必要とされる子どもについては、大和市すくすく子育て課の発達支援担当の巡回相談を年3回受け、ケース記録を作成しています。 ・日常的に戸外活動を取り入れ、積極的に公園などへ散歩に出かけて虫を捕まえて観察したり、落ち葉やどんぐりを拾ったりして自然に積極的に触れています。 ・リトミックや歌、音の出るマラカスや太鼓、絵の具、粘土、折り紙など子どもの発達に応じて保育に取り入れています。 ・3歳から5歳は異年齢で散歩に行ったり、午後の遊びでは異年齢で関わる時間を設けたり年長者への憧れや年少者への思いやる心を育てています。 ・あらかじめ子どもの喫食状況を把握して盛りつけの量を調節し、完食できる喜びを味わえるようにして、子どもの食事を楽しみにする心を育てています。 ・乳幼児突然死症候群に対しては0～2歳児は定められた時間ごとに睡眠をチェックし、うつぶせに寝せないように配慮しています。 ・0～2歳児までは連絡帳でその日の子どもの様子を細かく伝達し、3～5歳児はクラス全体の活動を「今日の様子」として廊下のホワイトボードに掲示しています。 ・個人面談は年2回実施し、希望があれば随時面談の機会を作っています。クラス懇談会を年2回実施し、各クラスの様子を伝え、質疑応答、意見交換などを行っています。0、1歳児は保育参観、2～5歳児は保育参加を期間を決めて行っています。

3.サービスマネジメントシステムの確立	・入園前面接でならし保育の必要性について保護者に説明し、入園説明会では重要事項説明書にそって説明し、協力をお願いしています。 ・入園前面接で子どもや家庭の状況、要望事項などを面談シートに記録し、入園後の子どもの健康・遊び・言葉・表現などの発達記録は、定められた周期ごとに児童票に記録しています。 ・毎月の職員会議で障がいのある子どもについて話し合い、ケース記録として記録し、必要に応じ個別指導計画を作成しています。また、大和市の発達支援担当の臨床心理士による巡回相談を受けています。 ・入園時面接でアレルギー疾患について聞き、アレルギーがある子どもについては、大和市指定の生活管理表を提出してもらい、除去食、代替食を提供し、提供時は複数の職員で確認して誤食防止に努めています。 ・重要事項説明書に苦情解決責任者、苦情受付担当者、設置法人運営本部、第三者委員2名を記載し、入園説明会で保護者に説明しています。苦情があった時は苦情対応マニュアルに沿い、設置法人に連絡するとともに、大和市ほいく課と連携して対応することになっています。 ・感染症マニュアルがあり、保護者には入園説明会で感染症発生時の園の対応や登園停止基準を説明しています。感染症が園内で発症した場合には、玄関ロビーに掲示するとともに保護者や職員に速やかに伝達しています。 ・事故防止対応マニュアルがあり、保育室内の大型の家具には転倒防止装置、ロッカーの上の備品には滑り止めシートをつけています。緊急時の連絡体制を事務室に掲示し、火災・地震・津波を想定した避難・消火・通報訓練を毎月行い、不審者対策訓練を年1回行っています。
4.地域との交流・連携	・一時保育を積極的に受け入れ、大和市の認可保育園で唯一休日保育も行っています。育児相談は毎月第二金曜日に設定し、一時保育の利用者や園見学者から子育てに関する相談にのっています。 ・0、1歳児を対象に「にこにこひろば」「すくすくひろば」などを定期的に行い、近隣の公園や自園で手遊び、紙芝居などの保育提供を行っています。大和市の「やまと子育て応援フェスタ」でギャラリーに年長児の共同作品を展示しています。 ・夏祭り前後に隣接マンション住民にポスティングを行い、事前のお知らせと終了後のお礼を行い、夏祭りには第三者委員と一時保育利用者を招待しています。 ・日頃の戸外活動では、近隣の公園に散歩に出かけ、途中で会う地域の人には職員にならない、子どもたちも挨拶をして交流を図っています。
5.運営上の透明性の確保と継続性	・大和市ほいく課に園のパンフレットを置き、設置法人のホームページに園の基本情報を掲載しています。園見学者にはパンフレットに基づき、理念・方針、保育内容・プログラム、給食・持ち物などを丁寧に説明しています。 ・第三者評価を毎年受審し、常勤職員は一人一人が第三者評価の項目にそって

	自己評価を行い、これらを園長・主任が取り纏め、園としての自己評価を行い、明確になった課題について職員間で話し合い、改善に向けて取り組んでいます。 ・保育園業務マニュアルには社会人としての心構えやコンプライアンス、就業規則には服務規律、機密保持、倫理規律などが明記され、職員は入社時の研修で周知しています。設置法人のホームページに経営・運営状況を公開しています。 ・設置法人の園長会議で系列他園の不正・不適切なケースが報告され、各園に事故事例などが通達され、園では昼礼や職員会議で話し合いを持ち、事故防止に努めています。 ・理念・基本方針、園目標を玄関に掲示し、園長は職員会議で「理念をどう保育に活かしていくか」を伝えています。また、保育室を巡回し、職員が保育の中で理念・方針にそって具体的に行動しているかを確認しています。 ・子ども・子育て支援新制度のスタートに伴う重要な変更事項については、職員に説明し、保護者におたよりを出し、懇談会でも説明しています。 ・主任はクラス担任を兼ねており、毎月の職員のシフト勤務表を作成し、出勤簿の管理をして個々の職員の業務の状況を把握し、職員に対して的確な指導・助言を行っています。 ・開園時に5年間の長期計画を掲げ、利用者（子どもと保護者）と地域に重点をおいた計画を策定しています。
6.職員の資質向上の促進	・実習生受け入れマニュアルに沿い、受け入れにあたり、園の運営方針、利用者のプライバシー保護や守秘義務などの注意点を説明しています。実習中は実習日誌をもとに、実習生と職員の話し合いの機会を多く持っています。 ・「保育士人材育成ビジョン」があり、年次別、階層別の達成目標を示しています。職員は毎年、自己啓発目標を定め、半期別の年間研修計画を立て、園長のアドバイスを受けています。 ・設置法人の研修には受講が義務づけられる階層別研修と、職員が希望して参加できる自由選択研修があり、自由選択研修は非常勤職員も受講ができます。非常勤職員は昼礼ノートや職員会議録などで情報を入手し、嘔吐処理などの必要なテーマについては、園内研修で一緒に勉強しています。 ・職員は年2回、自分の保育力など定められた項目に沿い、自己査定を行い、園長・マネージャーが評価しています。年2回の自己査定時に園長は職員と面談し、個別に職員の意見・要望を聞いています。 ・職員の意見・提案は昼礼や職員会議で出されるほか、設置法人の「提案BOX」制度を通じ、いつでも提出することができます。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅰ－１ 保育方針の共通理解と保育計画等の作成 	・運営理念は「安全・安心を第一に」「お子様にとっていつまでも思い出に残る保育を」「利用者のニーズにあった保育サービスを提供」「職員が楽しく働けること」、基本方針は「子どもの自ら伸びようとする力、後伸びする力、五感で感じる保育の充実を目指す」、園目標は「心も体も健康で元気な子・自分の思いを素直に表現できる子・豊かな感性を持ち、ともに育ち合う子」であり、子どもを尊重したのになっています。入社時に常勤職員、非常勤職員は運営理念、基本方針について説明を受け、玄関ホールに理念・園目標を掲示してあります。園長は指導計画が運営理念、基本方針、園目標に沿っていることを確認し、日々の保育の中で計画を実践するように指導しています。 ・保育課程は、年齢ごとの発達過程に応じて、理念・方針・園目標に沿うように子どもの最善の利益を最優先して作成しており、育児相談・地域交流など、保護者と地域への信頼関係を築くことを考慮しています。年度末にクラス担任が保育課程を見直し、職員会議で話し合い、次年度に反映しています。入園式で、園長が保護者に保育課程を説明しています。 ・保育課程に基づき、各クラスの担任が年間指導計画、月間指導計画、週案を作成しています。子どもの発達過程や理解力を考慮しながら「何のために行うか」を話し、幼児には端的に分かりやすい言葉で、その日の行動や行事について説明し、納得できているかを確認しています。乳児の場合は態度や表情から気持ちを汲み取り、幼児の場合は、問いかけながらやってみたい思いを把握し、指導計画を柔軟に変更し、主体性を育むように活動内容を決めています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



・入園前に園長、主任が面接を行い、面談シートに記入しています。0, 1歳児、食物アレルギーの配慮が必要な子どもの場合は、栄養士が面接に参加して状況を把握しています。面接には子どもを同伴してもらい、子どもの遊ぶ様子や保護者とかかわりを観察しています。保護者に大和市指定の児童票、設置法人指定の書類に記入提出してもらい、生育歴や家庭の状況を把握して個別にファイルしています。

・入園時の説明会で「慣れ保育」の必要性を保護者に説明し、1～2週間かけて徐々に在園時間を延ばして、子どもが不安にならないように配慮しています。園生活に慣れるまで子どもが安心して過ごせるよう、お気に入りのキャラクターなどを持ち込むことができます。0～2歳児は保育連絡ノートに家庭での様子を記入してもらい、園での活動の様子、食事、午睡、排泄の様子を記載して保護者に伝えています。在園児については、3月後半に進級する部屋に移動して新しい環境に慣れてもらい、4月は二人職員体制にして、きめ細かく対応できるようにしています。

・クラス担任が主体になりクラスごとに年間指導計画、月間指導計画、週案を作成し、各期間の末に評価・反省をして次の期間の指導計画に反映しています。指導計画作成は、主任、園長の助言を受け、また、クラスの中で他の職員と指導結果などについて話し合っています。個人面談、運営委員会、クラス懇談会、行事後のアンケートなどを通じて保護者の意向を把握しながら指導計画に反映し、離乳食への移行やトイレ・トレーニングなど保護者と連携して進めています。

I-3 快適な施設環境の確保



・清掃記録表により共用部分、各クラスの清掃箇所を決めて毎日清掃し、園内は清潔に保たれています。24時間稼働の換気扇、防臭・防湿タイル、エアコン加湿器により快適な室内環境を保っています。音楽や職員の声がフロア内で騒音にならないように配慮しています。1階に沐浴設備があり、お尻かぶれ、体が汚れたときなどに使用し、2階に温水シャワー、1階園庭と屋上園庭に温水シャワーがあり、汗をかいたとき、体が汚れたときなどに使っています。使用の都度、保育園衛生マニュアルに従い、清掃後、ジアンックで消毒しています。

・0～2歳児用保育室はおもちゃ棚、マットなどで仕切り、コーナーを作って小集団で遊べるようにしています。各保育室は食事と遊び、午睡の場所を別にして機能別の空間にしています。朝夕の合同保育、食事、おやつ、散歩や自由遊びの時間を異年齢で交流する時間としています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児について、一人一人の発達に合わせて個人別に月間指導計画を作成しています。3歳以上の課題がある子どもについて、職員会議や昼礼時に様子を報告し合い、また、大和市の児童発達支援センターの職員が毎月園を訪問し、課題のある子どもの発達状況を確認し、指導方法や対応について助言しています。年2回の保護者面談、また、子どもの発達のなかで気になる点がある場合は、面談を通じて保護者と意見交換し、指導計画に反映しています。
- ・5歳児について年度末に保育所児童保育要録を対象の小学校に届け、口頭で説明をしています。児童票に、入園後の子どもの発達記録を0～1歳児は毎月、2歳児は2か月毎、3歳児以上は3か月ごとに記録し、毎月の身体測定結果、年2回の健康診断結果、年1回の歯科健診結果を個人別にファイル、事務室の鍵のかかる書庫に保管して、必要に応じて職員はいつでも見るできるようになっています。進級時には個人ファイルを基にして、子どもの特徴、配慮すべき事項などを新旧担任間で引継ぎを行っています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・大和市の児童発達支援センターの職員が毎月園を訪問し、課題のある子どもについて指導方法や対応について助言をし、また、階層別研修を通じて職員は配慮を要する子どもへの対応方法を学んでいます。
- ・玄関と保育室入口には段差がなくバリアフリーになっており、身障者用トイレを設置しています。障がいと認定された子どもについては、担任が園長・主任と話し合って年間指導計画を作成しています。
- ・虐待対応マニュアルがあり、入社時に研修を受講し、全職員が周知しています。日々子どもの観察を通して異常がないかチェックをして虐待の早期発見に努め、虐待が明白な場合は神奈川県中央児童相談所に通告する体制になっています。
- ・入園前の面接時に保護者からアレルギーについて聞き、食物アレルギーのある子どもの保護者と栄養士が面談し、主治医の「生活管理指導表」を提出してもらい、除去食を提供しています。食物アレルギーのある子どもの保護者、担任、栄養士が半年ごとに面談を行い、除去食を提供しています。食事提供時はアレルギーのある子どもについてはトレイの色を変え、ラップをかけて名前と除去内容を明記し、複数の職員が確認して誤食がないように配慮しています。
- ・入園時に保護者から文化や生活習慣について聞き、日本と相違がある場合は、文化・生活習慣を強制することなく対応しています。

評価分類

I-6 苦情解決体制



評価の理由（コメント）

- ・重要事項説明書に、苦情解決責任者（園長）、苦情受付担当者（主任）、設置法人運営本部、地域住民の第三者委員2名（氏名と連絡先）を記載し、入園説明会で保護者に説明し、入園説明会で第三者委員に直接相談・苦情を申し立てることができることを説明し、玄関に第三者委員名と連絡先を掲示しています。玄関に意見箱を設置し、親子行事後にはアンケートを取り、結果を掲示しています。入園説明会で苦情解決窓口として、大和市保健福祉センター内のほいく課を紹介しています。
- ・設置法人制定の「苦情対応マニュアル」「苦情解決に関する要綱」があります。園単独で解決が困難な場合は、設置法人に連絡するとともに、大和市のほいく課と連携体制をとることになっています。苦情・要望があった場合は昼礼や職員会議で検討し、対応しています。保護者からの苦情・要望は「クレーム受理票」に記載し、ファイリングして再発防止に努めています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類

Ⅱ－１ 保育内容[遊び]



評価の理由（コメント）

・子どもがおもちゃや絵本、教材などを自分で取り出せるように、低い棚に置き、0歳児用にぬいぐるみなど、1歳児用に大きなブロック、絵本など、2歳児用に小さなブロック、人形などを用意し、幼児の年齢が増すにしたがって、より複雑で緻密なブロックを用意し、遊びが発展するようにしています。子どもが落ち着いて遊べるように、マット、ままごとセット、棚などを使ってコーナーを作っています。

・子どもたちの発想や発見を大切にダンボール・牛乳パックなどを自由に使い、作りたい物を作っています。順番に並ぶことやルールのある遊びなどを通して、社会性を身に付けるようにしています。何をして遊んでいいかわからない子どもには、職員と一緒に遊んで興味を持たせるようにしています。

・スプラウト、キュウリ、なすなど多くの野菜を園庭で育て、水やりをしています。夏場はカブト虫やクワガタに名前を付けてクラスで飼育しています。

・ダンボールや牛乳パックなど自由に作品を作れる場を用意し、クレヨン、折り紙、粘土などは自由に使えるようになっています。週1回のリトミック教室では、ピアノに合わせて歌い、身体を動かし表現遊びを楽しんでいます。

・けんかが起こったとき、乳児の場合は保育士がお互いの気持ちを代弁し、幼児の場合は、子ども同士で解決できるように見守り、収まらない場合は仲介に入ります。異年齢保育について昨年度の園内研修テーマに取り上げ、各クラスのねらいに合った時期や無理なく行える時期を検討して実行しています。子どもへの態度や言葉づかいで不適切な言動が見られた場合は、園長・主任がその場で注意し、職員間でも注意し合えるようにしています。

・全クラスとも近隣の公園に積極的に散歩に行っています。紫外線対策として、ネックガード付きの帽子を使用し、薄手の長そでを用意してもらい、直接肌に触れないように気をつけています。週1回体操教室があり、専門の講師により年齢に合わせて運動能力を高めるようにしています。また、クラス担任が子どもたちの発達状況をみて、運動能力を高めるように、布団で山を作ったり、マットでトンネルを作るなど、子どもたちが楽しみながら運動する環境を工夫しています。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



・食事は、一人一人に合わせて量を調節し、楽しく食べられるように言葉がけをしています。授乳や離乳食は、一人一人の状況や発達に合わせて、保護者と話し合いながら進めています。0、1歳児には咀嚼、嚥下の状況を見ながら「カミカミ」など言葉をかけて食事援助をしています。幼児クラスでは交代で当番を決め、配膳の手伝いをしています。片付けは各自が行い、食器や食具を大事に扱うことを身に付けています。

・月に1回ランチの日があり、季節感のある献立を提供しています。雰囲気を変えてバイキング形式にしたり、屋上で食べたりしています。子どもの成長に合わせて食具を変えています。箸は保護者と相談しながら、概ね3歳頃から使用しています。毎月給食会議を行い切り方、味付け、盛り方などを検討しています。残食簿を付けて、人気がある物やない物、食べにくい物は設置法人本部の栄養管理係に報告しています。

・離乳食、幼児食、アレルギー児用の献立表を作成し、月末に保護者に配付しています。

・献立作成のポイントを明記した設置法人作成の給食だよりを月末に配付しています。よく食べる献立は人気レシピとして保護者が持ち帰られるように玄関に置いています。6月に給食試食会を行い、保護者の感想を聞き、家庭での様子を聞きながら、献立や味付けの参考にしています。

・午睡時は消灯してカーテンを引き部屋を薄暗い環境にし、オルゴールをかけて眠りに入りやすいようにしています。乳幼児突然死症候群防止の為、0歳児は5分おき、1、2歳児は10分おきに呼吸確認とうつぶせ寝をしていないかをチェックしています。3歳児以上も定期的に見ています。5歳児は1月頃から午睡を行わず、その間、パズル、絵本などで遊んでいます。

・トイレトレーニングは、0、1歳児から徐々に、おむつ交換時に始めています。保護者には、園での排泄状況を保育連絡ノートや口頭で伝え、トイレトレーニングの進め方を相談しています。排泄に失敗した場合は、ほかの子どもに気付かれないように素早くシャワー、着替えをさせるようにしています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



・設置法人作成の保育園業務マニュアルに、子どもの健康管理に関する規定があります。朝は全員が検温し、0、1歳児は、午睡後も検温しています。子どもの既往症については児童健康調査票を確認しています。熱性けいれんやアナフィラキシーショックの場合の対応について職員は周知しています。園で体調不良になった場合は、静かに過ごしてもらい、翌日、保護者にその後の状況を確認しています。1歳児後半でうがい指導を行い、2歳児から歯磨き指導をしています。2、3歳児については職員による仕上げ磨きをしています。

・年2回内科健診と年1回歯科健診を受け、検診結果は個人健康記録表に記録し、健診結果を書面で保護者に報告しています。異常があった場合は園長から保護者に詳しく説明しています。受診が必要な場合は、症状と対応方法を嘱託医と話し合い、どの病院に行ったら良いかなどを具体的に保護者に知らせています。

・感染症対応マニュアルがあり、対応方法が明記され、保護者には登園停止基準などを重要事項説明書に基づいて入園時に説明しています。保育中に発症した場合は、38度を超えたら保護者に連絡してお迎えをお願いしています。インフルエンザが流行りだした場合は37.5度になったら保護者に連絡し、すぐに来られない場合には、保護者がお迎えに来るまで事務所で静かに過ごしてもらっています。園内で感染症が発生した場合には、玄関に感染症名、クラス名、人数を掲示しています。大和市役所から得られた感染症に関する最新情報は、昼礼で職員が共有しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



・衛生管理マニュアルがあります。年度末に園の意見要望を受け、設置法人がマニュアルを毎年見直しています。入職時にマニュアルの説明を受け、園内研修やプール開始時期などのタイミングで研修を行いマニュアル内容を確認しています。保育室清掃記録表に基づいて清掃を行い、園内外は清潔に保たれています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



・安全管理に関するマニュアルや事故防止マニュアルがあります。備品などは金具での固定や滑り止めを使って転倒や落下を防止しています。緊急連絡体制があり事務室の電話の近くに掲示してあります。マニュアルは毎月の避難訓練のときに職員各自が確認し身に付けられるようしています。職員、保護者には一斉メール配信をするシステムにしています。火災・地震を想定した避難・消火・通報訓練を毎月行っています。赤十字幼児安全法を職員のほとんどが受講しています。消防訓練の際に消防署員からAEDの研修を受けています。

・事故やケガの場合の保護者への連絡体制があり、医療機関、消防、警察などの連絡先一覧や連絡方法を事務所に掲示しています。子どものケガは、軽症であっても保護者に伝えていきます。ケガが発生した場合はアクシデントレポートに記載し再発防止対策を職員会議で検討立案し、設置法人と大和市子ども部ほいく課に報告します。ケガに至らなくても危険な行動や箇所があった場合は、ヒヤリハットとして担任伝言表に記録しています。系列園で事故があった場合は、設置法人からメールで伝達され、職員会議や昼礼で情報を共有し、園内での予防対策を話し合っています。

・玄関は自動施錠になっており、保護者や職員は専用カードで、来客はインターホンで解錠するようになっています。警備会社と契約し、園や散歩先から通報できるようになっています。合言葉を決めて、年1回不審者対応訓練を行い、職員1人が不審者に対応している間に、避難する手はずとなっています。不審者情報は、大和市子ども部ほいく課からのメール、設置法人からメールやFAXで連絡がくるようになっています。

評価分類

Ⅱ－３ 人権の尊重



評価の理由（コメント）

・子どもの気持ちを受け止め、子どもに強要していないか職員どうし気を付けるようにし、年齢に合ったわかりやすく丁寧な言葉遣いをするようにしています。子どもの目線に立って、子どもの気持ちを受け入れるようにしています。昼礼や職員会議で、子どもに強要するようなことをしていないか、言葉遣いは適切かなどを話し合っています。

・保育室のコーナーなど、友達の視線を遮りながら、職員からは死角にならず、1人で過ごせる場所があります。時には事務室で絵本や折り紙をして過ごし落ち着けるようにしています。

・設置法人作成の個人情報管理規程があり、職員は定期的を確認しています。個人情報に関することは、園外園内に関わらず、口外しないようにしています。入園時に、重要事項説明書に基づいて個人情報の利用の説明をし、同意を得ています。個人情報に関する記録類は、事務室の施錠できる場所に保管管理しています。

・性別により服装や持ち物の色を区別したり、行事の役も性別に関係なく子どもの希望を聞いています。グループ分け、整列などは性別にせず、発達に応じたグループに分けたり自由に分かれていたりします。子どもや保護者に、男女の役割を固定的にとらえた話し方をしないようにしています。

Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



・保護者に対して、保育方針やクラスの方針を入園式で説明し、毎月の園だよりで掲載し、園だよりやクラスだよりで、保育のねらいなど保育方針が保護者に伝わるように努めています。3月の保護者懇談会でアンケートを配り、1年を振り返りながら、基本方針や運営理念をについての理解を深めています。

・幼児はクラス全体の活動を「今日の様子」でホワイトボードに貼って知らせ、降園時に声をかけてその日の子ども様子を伝えています。0～2歳児は保護者との保育連絡ノートがあり、毎日家庭や園の様子を交換しています。個人面談年2回実施して、園での生活や様子を伝えています。

・保護者との面談や相談は、相談室や事務室で行い、相談を受けた職員がすぐに答えられない場合には、園長・主任に相談し、必要であれば設置法人本部や関係機関に相談できる体制になっています。相談内容は、個別面談記録に記録して、継続的にフォローできるようにしています。

・3～5歳児は、その日の保育の様子を保育室のボードに保護者向けに書いています。クラス懇談会を年2回行い、保育内容・ねらいなどを説明しています。七夕、ハロウィンなどの行事の写真や、日頃の保育活動の様子を写真を張り出して保護者に伝えています。

・年間行事予定は年度始めに保護者に配付し、休暇を取りやすくしています。保育参観は11月に、保育参加は、1月に行いました。懇談会に出席できなかった保護者には、懇談会議事録を渡しています。

・保護者からの要請があれば保育室の提供をしたり活動を支援することになっています。今年度は運動会の。保護者競技をリレーにしたので、コミュニケーションが深まりました。

<コメント・提言>

・保護者同士の連携は、育児支援の観点からも大切です。継続的な保護者組織ができることが期待されます。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類

Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



評価の理由（コメント）

・園見学者は100人以上で、丁寧に案内する中で、園開放や参加できる園行事について聞いたり、子育ての相談を受けており、地域の要望を把握しています。相談内容は記録して「育児相談」にファイルしています。

・大和市主催で毎年実施される「やまと子育て応援フェスタ」に、園を紹介する情報を流し、園での交流会、育児相談、園の地域開放について地域へ伝えています。その中で、育児相談を毎月第2金曜日と知らせています。

・地域子育て連絡会としての深見台地域連絡会に参加して、就学相談、育児講座、手遊び、紙芝居などを担当しています。

・地域のニーズに応え、緊急時・非定型の一時保育として1～5歳児20名を受け入れています。さらに、大和市認可保育園として唯一の休日保育を同系列他園の協力も得て実施しています。

・近くの大和南2丁目公園に行き、ペープサートや紙芝居を提供する企画をしています。また、大和市主催の「すくすくひろば・親子で遊ぼう会」で、子育てが楽しくなるような遊びや、本の読み聞かせをする計画をしています。

Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能



・育児相談は、毎月第2金曜日に決めて、大和子育て応援パスタでパネル展示して地域の人々へ知らせています。実績はまだ少ないですが、例えば、お祭りひろばなどの園行事への参加者は増えています。

・0, 1歳児の親子を対象として「すくすくひろば・親子で遊ぼう会」については、チラシを園の外部に掲示し、地域の方に支援行事の内容を知らせています。

・毎年、開催する大和市アートフェスタには、年長児担任が担当して参加しています。今年は年長児の共同作品・寝転んでみるプラネタリウムを展示することになっています。また、大和市子育て支援行事は主任が担当し、イオンモールの実行委員として活動しています。

・大和市の公・私立認可保育園園長会の連絡協議会、大和市社会福祉協議会、教育員会就学相談担当、深見小学校などとは、必要に応じて連絡を取れるようにしています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ 	・夏祭りに第三者委員や一時保育を利用している家族を招待しています。 ・園として、自治会に加入しており、今年度は班長として活動しています。 ・幼保小連絡会議に参加し、小学校の先生と就学前に身に付けてほしいことを具体的に話し合っています。また、就学に向け、気になる子どもは教育委員会の就学相談の担当と連携をとっています。 ・ハロウィンのときに、町内の会社に協力依頼し、子どもたちへのお菓子を渡す交流をしてもらっています。 ・近隣の子どもの戸外活動に適した多くの公園を利用したり、近くに最近完成した「やまと芸術文化ホール」で園児の生活発表会を行うなど、地域の施設を積極的に使用して活動しています。 ・近くの園との交流を行い、プール活動を一緒に実施したり、ドッジボール大会を行ったり、園に招待して劇を見てもらったりしています。
Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供 	・園のホームページに、園の基本的情報を提供し、日常の活動の様子も写真で伝えるようにしています。また、大和市の保育家庭課に園のパンフレットを置いて、自由に持ち帰られるようになっています。 ・園のサービス内容を詳しく記載したパンフレットを作成し、入園希望者にはこの資料を基に丁寧に説明しています。 ・園の見学希望については、園長が在園のときは、見学者の都合に合わせて、開園時間内であれば柔軟に対応しています。 ・見学者のために、園の基本方針や入園の条件、保育内容を記載したパンフレットを用意し、さらに、一時保育と月極保育の2種類のパンフレットも渡しています。 <コメント・提言> ・地域住民や利用を希望する人に、広く園について知ってもらうために、外部の情報提供媒体に情報を提供されることを望みます。

IV-3 実習・ボランティアの受け入れ



- ・実習生・ボランティア受け入れのマニュアルが整備されており、園長が受け入れ窓口となっており、主任が担当として、対応しています。
- ・実習生には2週間前にオリエンテーションを行い、園の運営方針や実習にあたっての注意事項を、時間をかけて説明しています。
- ・実習日誌を基に実習生と職員で話す機会を持ち、効果的な実習になるよう配慮しています。

<コメント・提言>

- ・ボランティアを受け入れたときには、ボランティアの方の意見、感想など聞いて記録に残し、今後の参考にするよう期待します。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
V-1 職員の人材育成 	・設置法人は人材育成ビジョンに基づいて、毎年の研修計画を策定しています。 ・園では、この研修計画に基づいて、職員個別に年度の前期、後期に分けて、必要な研修計画を立てて、実行しています。 ・職員の個別研修計画については、園長が中心となって助言し、結果は職員の自己査定に反映し、達成状況を評価しています。 ・研修内容は、経験年数に応じた「階層別」と、希望すれば誰でも受講できる「自由選択」の研修となっています。 ・「自由選択」研修は非常勤職員も受講できます。 ・神奈川県、大和市や外部団体主催の外部研修も希望すれば参加できるようにしています。 ・研修レポートは必ず提出しており、内容は全職員が閲覧できるようになっています。 ・園内研修として、主任が中心となって職員の希望を聞いて行っています。今年度は昨年を引き続き、「異年齢保育」について行っています。年度末に近隣の同系列園が集まり、園内研修の発表会を実施しています。 ・日常の保育にあたっては、主任が各職員の経験なども考慮して、職員間の組み合わせシフトを決めています。 ・子どもに対して、どの職員も同じ対応ができるように、全職員間で同じ情報が共有できるように配慮しています。 ・職員会議の前に、非常勤職員も参加する園内研修を実施し、その意見も入れて職員会議で話し合われています。

評価分類	評価の理由（コメント）
V－2 職員の技術の向上 	・年に一度、第三者評価を受け入れており、その際に職員一人一人（非常勤職員も含む）が、自己評価を行っています。 ・第三者評価の過程の自己評価をまとめて、園としての自己評価としており、この際、改めて自己評価が園の方針や保育過程に沿って行われたか見直しています。 ・第三者評価を受ける過程や結果について、園の課題を抽出し、改善点を職員会議や昼礼で話し合っています。 ・指導計画は、結果を追求するだけでなく、子どもの様子から保育のねらい、子どもの意欲や育ちに配慮して書けるフォーマットになっています。さらに、指導計画の月案・週案、保育日誌に自己評価・反省を文章化して残す欄が設けられ、その都度、保育の見直しを行っており、自己評価を常日頃実施しています。 ・指導計画では、反省した結果を必ず次期の計画に反映するように努めています。 ・指導計画の自己評価がどのように記載されているか、園長が確認し、必要があればその都度助言するようにしています。さらに、全体を通じて、職員会議や昼礼で話し合う機会を設けています。 ・職員は個人別に年2回の自己査定があり、自分の保育力を見直すために、細かい項目に分けて自己評価を行っています。 <コメント・提言> ・自己評価の結果は公表する形まで至っていません。自己評価の過程で気づかれた課題と改善点などをまとめて、保護者に知らせることを期待します。
V－3 職員のモチベーションの維持 	・職員の経験年数に応じて、必要とする安全、保育力、保護者対応、社会性の分野で目標とする姿を明らかにした人材育成ビジョンが明文化されています。また、設置法人で作成した保育園業務マニュアルで「職務分担について」の基本が示されており、それを基に園内の役割分担を決めています。 ・保育については、クラスごとに担任制をとっており、現場の職員に可能な限り権限を委譲し、現場判断できるように、日常の訓練ができています。職員が迷ったり悩んだりしたときは、主任や園長に随時相談できるようにしています。 ・園長は職員と査定の時期に個別面談をしており、個別の意見、要望を聞いています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
VI-1 経営における社会的責任 	・ 設置法人の就業規則に倫理規程、服務規程を明記し、職員が不正・不適切な行為を行わないよう入社時研修で周知しています。また、コンプライアンス委員会を設置しています。設置法人のホームページに経営・運営状況などの情報を公開しています。設置法人の園長会で、他園の不適切な事例などを検討し、園に持ち帰って職員会議で話し合い、不適切な行為を行わないよう職員の意識を高めています。 ・ 牛乳パック、ペットボトル、段ボールなどの廃材でおもちゃなどを作成しています。不要になった紙の裏紙を利用して再使用しています。電気は小まめに消し、待機電力チェックシートにより不要電力節減に努め、屋上にソーラーパネルを設置して以前エネルギーを使用しています。屋上園庭のプランターで野菜栽培を行い、緑化に努めています。子どもたちにはタオルペーパーやティッシュは必要以上に使わないよう知らせています。「待機電力チェックシート」には、その機器を1時間つないだ場合の待機電力量を明記し、4、5歳児クラスの保育課程の「表現」の中で、廃材を使って作品をつくることをあげ、環境への取り組みが日頃の運営に活かされています。
VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	・ 理念・方針・園目標を玄関に掲示しています。心がけるべき設置法人の信条（子どもたちの笑顔の為に…）を記載したクレドを配布しています。園長は職員会議などの機会を捉え、「理念をどう保育に活かしていくか」を場面場面で伝えています。園長・主任は、日頃から保育室を巡回し、実際に保育に入り、職員が保育の中で理念・方針にそって具体的に行動しているかを確認しています。また、園長は指導計画の内容をみて、理念・基本方針に沿っていることを確認しています。 ・ 園の重要な意思決定については保護者に説明しています。職員の異動や体制などについて職員および保護者懇談会で理由や経過を説明しています。給食会議は栄養士と園長・保育士をメンバーとし、夏祭り、運動会、生活発表会など園の大きな行事の際には全職員で取り組んでいます。 ・ 設置法人作成の研修計画に主任育成のコースがあり、人材育成が計画的に行われています。主任は出勤簿や残業簿を管理し、またクラスを見回り個々の職員の業務状況を把握しています。主任は個々の職員の様子を見て指導計画作成時の指導、助言をしたり、園長により良い人材配置の提案をしています。主任はクラスの様子を察知して、職員の補助に入るなど職員の心身の健康状態に配慮し、毎日の職員配置を決定し、職員が働きやすいようにしています。

VI-3 効率的な運営



・事業運営に関する重要な情報は設置法人本部が収集し、園長会議で伝達され、園長が園に持ち帰り全職員で内容を共有しています。園運営上の重要事項は職員会議で検討し対応しています。重要な課題については設置法人本部で検討・意思決定し、マネージャー経由で各園に伝達・指示されています。

・平成26年～30年の長期目標として「子どもが自己の主体性や人への信頼感を形成していく保育」「保護者が安心して子育てでき、良きパートナーとなることができる支援」「“子育て拠点”となる地域に根ざした連携」を掲げ、平成28年度の中期目標として「ひとりひとりの子どもを見つめる保育」「保護者の声を大切にする」「地域との交流を積極的に行う」を掲げています。

・設置法人は将来を見据えた保育施設の開設計画など、新たな運営やサービスプロセスについて常に検討し、また、人材育成計画を作成し、階層別研修、園長研修、主任研修を計画的に実施して人材の育成を図っています。

・設置法人は運営について弁護士、業界関連機関、各分野の専門家などから意見を収集し運営に活かしています。

利用者家族アンケート

事業所名:アスク大和南保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数 63名、全保護者 51家族を対象とし、回答は 34家族からあり、回収率は 67%でした。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で 保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態で評価機関が回収しました。

◇ 総合満足度

肯定的な回答は 97% (満足 62%、どちらかといえば満足 35%) と高い評価を得ており、否定的な回答は 3% (どちらかといえば不満 3%、不満 0%) でした。

◇ 比較的満足度の高い項目 (満足、どちらかといえば満足の合計の割合)

- | | |
|---------------|-----------------------------------|
| 1) 入園するときの状況 | 園の目標や方針についての説明 100% |
| | 入園前の見学や説明など、園からの情報提供 97% |
| | 入園時の面接などで、お子さんの生育歴などを聞く対応 97% |
| 2) 日常の保育内容 生活 | 給食の献立内容については 100% |
| | お子さんが給食を楽しんでいるか 97% |
| 3) 園と保護者との連携 | 残業などで迎えが遅くなる場合、時間内なら柔軟に対応するか 100% |
| | 園の行事の開催日や時間帯への配慮 97% |
| 4) 職員の対応 | お子さんが保育園生活を楽しんでいるか 97% |

◇ 比較的満足度の低い項目 (不満、どちらかといえば不満の合計の割合)

- | | |
|---------------|----------------------------|
| 1) 園と保護者との連携 | 送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換 24% |
| | お子さんに関する重要な情報の連絡体制 18% |
| 2) 日常の保育内容 生活 | お子さんの体調への気配り 15% |
| 3) 職員の対応 | 意見や要望への対応 15% |

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	9%	70%	9%	9%	0%	3%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	59%	41%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	73%	15%	0%	0%	12%	0%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	68%	29%	0%	3%	0%	0%
	その他:					
園の目標や方針についての説明には	62%	38%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	68%	29%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	50%	38%	12%	0%	0%	0%
	その他:					
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかを含めて)	59%	35%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	56%	38%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	35%	50%	9%	0%	6%	0%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	44%	50%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	47%	38%	12%	3%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	35%	53%	12%	0%	0%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	50%	44%	3%	3%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	44%	47%	3%	0%	6%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	35%	59%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	91%	9%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	71%	26%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	59%	35%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	53%	32%	9%	3%	0%	3%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	56%	32%	6%	3%	3%	0%
	その他:まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	47%	38%	9%	6%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	62%	26%	6%	3%	3%	0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	56%	38%	3%	3%	0%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	50%	44%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	47%	41%	9%	3%	0%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	59%	35%	6%	0%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	44%	50%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	50%	44%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	59%	38%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	23%	47%	21%	3%	6%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	35%	47%	15%	3%	0%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	44%	47%	3%	6%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	59%	41%	0%	0%	0%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	50%	44%	3%	0%	3%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	56%	41%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	47%	41%	0%	0%	9%	3%
	その他:					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	47%	41%	6%	0%	6%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	44%	35%	12%	3%	6%	0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	62%	35%	3%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

平成 28 年 12 月 2 日

事業所名：アスク大和南保育園

【0 歳児】

<食事>

「〇〇ちゃん、お野菜も食べる？」保育士にスプーンでおかずを口元に運んでもらっています。手づかみでおかずを食べている子どもがいます。保育士が子どもたちに声をかけています。「じょうず、上手」「かみかみねー」「これ、カボチャだねー」かぼちやを口に運んでもらっています。スプーンで上手におかずを口元に運んでいる子どももいます。「〇〇ちゃん、カボチャいる？食べてないけど」保育士にフォークでかぼちやを刺して口に運んでもらっています。隣りの子どもはフォークをつかみ、別の手でかぼちやをつかんで刺しています。「じょうず、じょうず、おいし？」保育士に促されながら、子どもは何とか自分で食べようとしています。

<午睡>

照明を消し、カーテンを閉めた薄暗い部屋の中で、子どもたちが寝入っています。保育士が見守りながら、ときどき布団をかけ直しています。

【1 歳児】

<食事>

並んだ机の周りに子どもたちが座っています。保育士が子どもたちに絵本を見せています。「あ、みゃーん。みゃーん」次のページを開くと「おばけー」と反応しています。横では午睡のための布団を保育士が並べています。子どもが手をたたいて次のページを待っています。園長が来てボールペンをマイクに見立てて皆に差し向けながら「お名前は？」「〇〇」「できたねー」順番に皆にマイクを向けて名前を言ってもらいます。最後に「今日のお休みは？」子どもたち「いなーい」

子どもたちは順番にスタイを付けてもらっています。保育士が絵本を読み始めました。子どもたちは絵本とお話に集中しています。

給食の歌を全員で元気よく歌い、食事をはじめました。保育士二人が黄色いトレイの前で確認し合っています。「今日は、除去はないです」

子どもたちがスプーンでお皿のおかずやご飯をすくって口に運んでいます。保育士が子どもに声をかけています。「お肉食べてみる？ 豚肉だよ」と促され

て子どもがスプーンで肉をすくって口に運んでいます。「おいしい？」子どもがうなずくと、保育士「やったー！」「〇〇ちゃん、野菜食べたねー、えらーい、見せて、見せて」保育士に言われて子どもは嬉しそうです。泣いていた子どもがやがて野菜を食べ始めました。「えらーい、えらーい」頭を撫でてもらっています。保育士「これ、なーんだ？」子ども「だいこん」みそ汁の底に残っている大根を子どもはスプーンですくって食べ始めました。

<午睡>

カーテンを閉め、照明を消して部屋は薄暗くなっています。静かにオルゴールの音色が流れています。子どもたちは全員静かに寝入っています。保育士が書き物をしながら、子どもたちの様子を確認しています。

【2歳児】

<食事>

「みて、みて」子どもがきれいになった皿をかざしています。保育士「グリーンピース、食べるよー」促されて子どもはグリーンピースをスプーンですくいます。お代わりのおかずを保育士に皿に入れてもらっています。「あ、カボチャが付いてきたー」隣りの子どもに話しかけ、やがておかずを食べ始めました。保育士が皿のおかずを寄せて食べやすくしてあげています。子ども二人がふざけ合っています。「お化けー」「ぐるーん、ぐるーん」「お、ば、けー」二人はまたおかずに向い始めました。保育士「パク、パク お茶飲んでー ごちそうさましてくださーい」

歯ブラシを持って机に柄を向けてトントンしています。「〇〇ちゃん、これで何をみがくんだっけ？」保育士が子どもたちの歯みがきの仕上げをして回っています。仕上げをしてもらった子どもは手洗い場に行き、口を水でゆすいでいます。

<散歩>

泉の森公園目指して、手をつなぎながら 2 列になって散歩に出発です。途中で出会うおばあちゃんがニコニコして「こんにちは」、子どもたちも「こんにちは」と返します。「あ、わんわんだよ」「自動車がいっぱい」皆、周囲のものに興味いっぱいです。歩いているうちに靴が脱げた子どもがいます。保育士がすかさず履き直させています。工事をしている場所を通過、起重機を止めて子どもたちを通過させてくれます。「何してんの？」交通整理係のおじさんが「おしごと」こどもたち「バイバーイ」手を振って通過します。

電車が見える場所にきました。線路が見通せる土手の高台で皆が待っていると、やがて、電車が勢いよく走って来ました。「ワーイ、ワーイ」皆嬉しそうに手を振ります。それに応えて、電車の運転手が白い手袋で手を振ってくれてい

ます。あつと言う間に眼下を走り去る電車を皆目で追いかけています。皆、大喜びで、はしゃいでいます。

「じゃ、みんな、ドングリ探そうか」保育士の誘導で少し下がったところの雑木林に移動します。ドングリを見つけた子どもは嬉しそうです。どうしても見つけることができず泣き出す子がいます。「〇〇ちゃん、ごめんね。今度はもっと見つかるところに散歩に行こうね」保育士が慰めています。

帰り道、すれ違う人たちは皆ニコニコして子どもたちの行進を見えています。子どもたちは店の置き物、空のジェット機、道と並行する水路…興味津々です。誰かが歌を歌いだすと、続いて子どもたちや保育士と一緒に歌い出します。交差点で、子どもたちは手を挙げて急いで渡ります。信号待ちのどの車の運転手もニコニコ子どもたちを見えています。手を振っている運転手もいます。

<午睡>

カーテンを閉め、照明を消して部屋は薄暗くなっています。静かにオルゴールの音色が流れています。子どもたちは全員静かに寝入っています。保育士がタイマーのかすかなブザー音に従って子どもたちの呼吸チェックをしています。

【3歳児】

<午睡の準備>

食事の前に遊び場だった部屋の半分に子どもたちは自分の布団を敷いて、午睡の準備を始めます。いつも自分の場所が決まっていて、折りたたまれているマットを伸ばし、その上に自分のタオルケットを広げて、端をマットの下に折り込んで準備完了です。素早くできる子、丁寧に何度もタオルを広げなおす子、いろいろですがみんな一生懸命で、終わると食事のためにテーブルにつきます。

<食事>

食事の席は決まっています。2名の当番さんが自主的に、各テーブルを布巾で拭きはじめます。同時に、子どもの名前が付いているトレイに箸を置いて回わります。保育士が、箸の先を人に向けないように注意しています。保育士が盛ったご飯とおかず、お汁、お茶を配っていきます。子どもたちは、決められているとおりにトレイの中の茶碗やおかずの皿などの配置を整えています。配り終わると、当番さんは「ご飯はありますか？」を大声で尋ねると、みんなが「あります」を揃って答えます。配膳したものを一つ一つ確認して、当番さんの声掛けで、一斉に「いただきまーす」 食事が始まります。子どもたちはおかずやお汁の中の食材を言いながら食べています。たちまち完食して、「ピカピカだよ」と茶碗を上げて、嬉しそうにしています。「全部おかわり！」保育士は「すごいね」とほめながら、ご飯、おかず、お汁も追加しています。次々と「お変わり！」の声があがっています。中にはご飯の食べ方が進まない子がい

ます。職員は「今日は多く盛りすぎたね」と言いながらご飯を減らしています。しかし、その子は最後には完食しました。

【4 歳児】

<食事>

給食が始まる前に、子どもたちは手を洗っています。トイレに行く子どももいます。給食がワゴンで運び込まれました。「麒麟組さーん、ごはんとりにきてくださーい」保育士が声をかけると、子どもたちが、めいめい、自分のごはん、お茶、おかずのお皿を持って自分のテーブルに運んでいます。保育士も運ぶのを手伝っています。

「今日の給食を発表します」保育士の言葉をお当番の二人が繰り返します。酢味噌和え（かぼちゃ、豆腐、ひき肉、ブロッコリー）、みそ汁が紹介されます。お当番「〇〇はありますか」全員「ありまーす」…お当番「おはしはありますか」全員「ありまーす」 お当番「それではみなさん、ごいっしょに、いただきます」全員「どうぞめしあがれ」 楽しい給食が始まりました。

「〇〇ちゃん、ブロッコリーおいしいよ、食べてね」保育士が声をかけています。「うーん」考えていた子どもが、パクッと口に入れました。「えらーい、その調子！」とすかさず保育士が誉めています。どんどん食べていた子どもが、おかずのお皿をかざしました。「ピカピカだよ」 保育士「えらいねー、じゃ、お代わりいいよ」子どもは勇んでお代わりに行きました。次々とお代わりに子どもたちが行きます。みそ汁を両手で支えて、しずしずと自分の席に戻っています。皆、テレビのキャラクターの話しで盛り上がっています。楽しい給食が続きます。

【5 歳児】

<朝の会>

朝の会が始まるころに、調査員が保育室に入っていくと、子どもたちの何人かがこちらに寄って来て、「おはようございます」と挨拶してくれます。保育士が「おきゃくさんだよ、ごあいさつしましょう」と声をかけると、クラス全員の子どもたちが一斉に元気よく「おはようございます」と声をあげます。

保育士がピアノを弾き始めると、全員起立して、元気に歌を歌い、保育士と、さらに、子ども同士で「朝の挨拶」をします。

当番さんが2名、前に出て挨拶し、今日の日付と曜日の札をめくって声をだして示しています。次に保育士が今日の予定をボードに記入しながら、子どもに確認しています。例えば、散歩コースについて子どもたちの意見を聞

いて決めています。ここで朝の会は終わりますが、子どもたちはいろいろな場面で、積極的に発言しています。次の一斉活動までの間に水分を補給したり、トイレに行く子どもがいたり、絵本を出して読みはじめたり、それぞれ自由に活発に行動しています。

<生活発表会の練習>

「アリババと 40 人の盗賊」を題材にした劇です。子どもたちがテーマを選んで、配役も希望で決めて、毎日のように練習を重ねています。調査員を目の前にしての練習なので、子どもたちも皆大きな声でセリフを言い、アクションも一生懸命で、熱が入っています。保育士と子どもたちが共同で製作した舞台の小道具もよくできていて上手に使っています。

途中で、保育士が動作の手直しを指示して、同じことを何回も繰り返す場面がありました。セリフの一部は子どもの意見で変えたところもあります。

終わって、調査員が「みんなすごく上手。がんばったね」と褒め、保育士が「今日は 95 点、本番は 100 点よ」と言うと、子どもたちは歓声をあげていました。

<散歩>

徒歩 10 分ほどの近く公園に散歩するので、子どもたちは玄関に集まります。散歩に行くために「ルールは守らないとね」などと言いつつ合っています。保育士が「点呼をとります」と言って、名前を次々と言います。子どもはその都度、大きな声で「はあーい！」と返事をしています。2 人ずつ手をつないで、列を組んで歩きます。歩き出すと直ぐ子どもたちはいろいろな歌を歌いだします。横断歩道では、保育士の声かけで、車の有無を確認して手を上げて急いで渡ります。別な横断歩道では、車が停車してくれて、「どうぞお先に」と指図しています。保育士は「ありがとうございます」と言って、子どもたちを誘導します。運転している方と、子どもたちは手を振りあって挨拶しています。

およそ 1 万平方メートルもある大きな公園の遊具のあるところには、先着のほかの園の子どもたちが遊んでいます。他の園の子どもたちとは交わらない場所で遊び始めました。いろいろな樹木がたくさんあり、地面はいっぱい落ち葉で色づいています。子どもたちは、落ち葉を蹴散らして駆けずり回ったり、いろいろな形や色の落ち葉を拾い集めたり、一人もじっとしていません。公園内の遊歩道で、子どもが走ろうと言い出して、数人の子どもが全速力で走り始めました。一回り 50～60 メートルのコースを 2 回ほどまわって息を切らしています。先頭の子も最後の子も満足げな表情をしています。持ってきた縄跳びのロープで、「連続で飛べるよ」を言いながら、1 回もうまくいなくても、何度も挑戦しています。2、3 回続けて飛べると、得意そうにし

ています。そのうち、縄跳びが得意な子どもが始めると、周りの子どもたちが数えています。13回も飛んだので、みんなが「わーい」と歓声をあげています。飛んだ子どもは疲れて地面にしゃがんでしまい、直ぐに起き上がれないでいます。間もなく元気になって、また列を組んでみんな上機嫌で帰路につきました。

【受審の動機】

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を元に保護者の真のニーズを把握し、その想いを日々の運営に反映させるべく評価受審に臨みました。平成 26 年 4 月に開園し 3 年目を迎え、今何が課題なのかを明確にし、より良い運営をしていくためのとても良い機会として捉えました。

また、常に利用者のニーズに添い、選ばれ続ける施設でありたいと考えております。受審にあたり、職員一人一人が趣旨を理解し、取り組むことが出来ました。

【受審した結果】

この受審をきっかけとして、職員全員が自分自身の保育や園全体の運営について、基本的なことから改めて見つめ直すことにより、保育者の自己評価、園の自己評価をする事の大切さを実感することができました。また、評価結果をもとに、保育の役割・機能といったものを再認識することができ、職員一同保育内容の改善・充実を図るためには何をすべきかが明確になり、より求められる保育園を作っていこうという決意をいたしました。

今年度は、地域の子育て連絡会に参加し、自園だけではなく他の活動団体と一緒に地域の子育て拠点としての活動に注力してきました。入園前の園の対応に関してのアンケート評価が良かったことは、このことも影響していると考え、大変うれしく思います。

一方で、今回の結果から次年度への課題として、送迎時を中心としたお子様の様子やお子様に関する重要な情報の連絡体制の強化があげられます。園で大半の時間を過ごすお子様の様子は、見守るだけでなく保護者の方へ適切におつたえすることにより、家庭・保育園での一貫した成長の見守りが可能となります。この点については職員全体で意識して取り組んでまいります。

最後に、今回の第三者評価の受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、そしてご多忙にも関わらず、利用者調査にご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。